



学校ひらいたモン

公教育と地域のつながりが
こどもを支える

NPO 法人 COCONI は、すべてのこどもたちが一歩先への希望をもてる社会をめざして、こども支援活動、進路・キャリア教育プログラム作成、進路情報の提供などを行っています。



今回の取り組みである、ベネッセこども基金への応募のきっかけは、過去に学習支援に来ていた中学生の保護者が、高校の入学説明会に行けない状況になり、その子の希望を受けて保護者の代わりに行ったことにあります。この件はこどもとの雑談から気づくことになったのですが、困りごとを抱えたこどもを見逃さないセーフティネットとして、学校・行政と地域、教育と福祉のネットワークの必要性を感じました。

学校は、経済的困難を含め、さまざまな課題を抱えるこどもたちの SOS に、最も近い位置にあります。しかし今の学校現場には、先生がこどもの声をゆっくり聴く余裕はなく、さらには学校外の課題まで持ち込まれることも少なくありません。

保護者や地域住民、事業者などが学校と一緒に課題に取り組み、教育環境の改善や支援ができれば、こどもたちは置かれた環境にかかわらず、より安心して暮らすことができ、自分の一歩先への希望のために学び育まれる地域社会に近づくはずです。

そんな思いを共にできた摂津市の教育委員会と学校の先生方、学校に関わる保護者・地域の方と、こどもたちのための支援ネットワークづくりに取り組みました。この冊子に、3年間に渡るその取り組みに至る思いや経緯、内容などをまとめました。摂津市で学校やこどもに関わる皆さまにはもちろんのこと、こども支援に取り組まれる方々の参考になりましたら幸いです。

答えのない問いに共に取り組んでいただいた先生方、保護者や地域の皆さまには感謝の思いでいっぱいです。また、摂津市教育委員会を訪ねるきっかけになった 2020 年度の活動に助成して下さったトヨタ財団と担当者の皆さま、3年間の取り組みを支えていただいたベネッセこども基金と担当者の皆さまに、心からお礼を申し上げます。

2025 年 3 月

NPO 法人 COCONI 代表理事 水木千代美

はじめに



CONTENTS



はじめに	1
こどものための取り組みを地域と始める、進める	2
ケース 1 摂津市立別府小学校 つながる場所の整備と学校運営協議会	6
ケース 2 摂津市立第四中学校 校内居場所の設置、運営	11
ケース 3 宿題カフェ 「宿題カフェ」2カ所が誕生	16
ヒント見つかるモン① 視察	20
ヒント見つかるモン② 研修	22
こどもたちのセーフティネットは、大人がつながることから	23
寄稿 競争主義から「関係主義」へ 谷村綾子	24
参考データ	25

COCONI が摂津市教育委員会と出会い、こどものための取り組みを進めるようになった経緯をふりかえり、あらためて思いや考えをうかがいました。

こどものための取り組みを 地域と始める、進める

コロナ禍でできた、 新しいキャリア教育

水木 おふたりに初めてお会いしたのは、2020年夏頃ですね。COCONI が作った『進路選びのヒント』を持って、教育委員会にうかがいました。トヨタ財団の助成を受けて、大阪府内の特色ある公立高校についてまとめた冊子です。

この冊子を中学生や先生、保護者に読んでほしいというのはもちろんあったんですが、それ以上に、コロナ禍で学校やこどもたちが困っていることを聞きたかったんです。近隣のNPOにできることは何だろう、と思って。

河平 摂津市は、かつてこどもの学力が全国平均より低い（全国学力・学習状況調査）というデータが出ていて、学ぶ意欲を向上させ夢や希望を持てる教育をすることに一層力を入れるべき状況でした。学びが

社会とつながるキャリア教育の推進も、そのひとつです。

でも、コロナ禍で校外と関わることができなくなつて、地域にご協力いただいていた職場体験もなくなりました。ではどうするか、という話を宗木としてからほどなく、水木さんが来られました。

宗木 進路選びの冊子と、キャリアコンサルタントの肩書きを持って。よきタイミングでした（笑）。

河平 「こどもたちの進路保障に取り組んでいます。キャリア教育でこどもたちを社会につなげたい」と言われた。渡りに船、ですよ（笑）。さっそく「キャリア教育推進委員会」を立ち上げて、意見交換させてもらいました。

宗木 それでできたのが、21年に始めた中学2年向けの「職種体験プログラム」です。それ以前の「職場体験」は、こどもが



COCONI「進路選びのヒント」
2018年

こ こ に
NPO 法人 COCONI 代表理事
水木千代美





摂津市教育委員会事務局
教育総務部学校教育課主幹兼指導主事
宗木俊憲さん



摂津市教育委員会事務局
教育総務部副理事兼学校教育課長
河平浩一さん

*所属・肩書きはインタビュー
当時のものです。(以下、同)

体験する内容が決まっていって、用意されたことを2日間こなします。一方、「職種体験」のほうは何をどんな順番で進めるのか見えていないし、こどもたちもどんな提案をするかなどを自分で考える時間が大半で、進行を予測しにくい。教員が受け入れ先のやりとりやメールに慣れていないなどの課題がありました。

現場は大変だったはずですが、「充実していて、こどもにはいい教育機会になった」という教員の声は一定数ありました。翌22年も教育委員会とCOCCONIが関わって、23年からは、希望する学校が自校で取り組むようになっていきます。

地域やNPOの関わりを 歓迎できるか

水木 突然やってきたCOCCONIのことは、どう思われたんですか？「面倒を持ち込まれたな」とか(笑)？

河平 いや、僕らの間では「これは、何かできるんじゃないかな」という期待しかなかったです。

ただ、学校現場が外とつながれるかという、なかなか難しい。教員は一般に、こ

どもの教育は自分たち教員が一手に引き受けて与えるもの、と考える傾向があります。教育行政やNPO、地域など、教員以外の方もこどもたちを育てている・支えているんだ、という認識は薄いでしょう。新しいチャレンジに対しては、リスクや不安から慎重になることも多いです。責任感からというのも分かるんですが、裏返すと新しいことは進みにくい面があります。

水木 摂津市の教育委員会は指導主事の判断に委ねている範囲が大きいと感じます。

宗木先生に何か尋ねたとき、その場で「いいですよ」と言われて、驚いたことがあります。普通は「上に確認します」なんですよ(笑)。

宗木 うーん、内容によりですけど(笑)。摂津市の教育委員会はいい意味で小さくて、組織をガチガチに固くしなくても柔軟に進められる良さがあるかもしれません。

河平 学校を含めて、組織としては守りが固くても、教員一人ひとりと話すと「こどものためにどうしていくか」という熱い思いを持っているんですね。校外の人を頼っていいという意識改革で、組織文化を

職種体験プログラム

期間：4～9月

内容：コロナ禍になり、摂津市立第一中学校が取り組んでいた企業連携プログラムを参考に、教育委員会とともに全中学校に展開。中学2年の生徒が、5人程度のグループに分かれて、担当企業や行政等からの課題やテーマについて情報収集、ディスカッションをする。考えた課題解決について、体験活動やインタビュー等のフィールドワークを実施し、報告プレゼンテーションを企業などが審査して、代表チームが全体に発表する。プレゼンテーションの方法についても、企業から話し方、資料の作り方などを学ぶ。協力企業・行政部門等の数は30を超える。キャリア教育優良教育委員会文部科学大臣表彰を受賞。

重点項目 27 のうち、
授業（教科指導）に
関係する項目はわずか

大阪府教育委員会が市町村教育委員会に向けまとめた「指導・助言事項」で挙げられている重点項目 27 のうち、授業（教科指導）に直接関係するのは「学習指導要領の確実な実施」「学力向上の取組みの充実」「グローバル社会における英語力の育成」程度にとどまる。他の項目にはヤングケアラー、いじめ、暴力、虐待、食物アレルギー、部活動などが挙げられている。

大阪府教育庁市町村教育室小中学校課「令和 7 年度 市町村教育委員会に対する指導・助言事項 ～未来を拓く教育をめざして～」2025 年 2 月

<https://www.pref.osaka.lg.jp/o180080/shochugakko/r2sidojogen/index.html>

変えていくというのがポイントになると思っています。

授業時間以外の課題は外と

つながらないと解決できない

水木 私は外の人間として、こどものために手伝えることがあるなら学校とつながりたいと思ってるんですけど、おふたりもそう思われていますね。

河平 私たちの部署は学校教育指導が本来の役割なので教育活動の中身が対象なんですけど、学校が社会から対応を求められる課題は、中身ではなく周辺のことが多いんです。

こどもたちの課題は授業（教科指導）以外にあることが多いです（上の囲み参照）。そこを何とかサポートしてもらわないと、どちらの課題も解決できません。

具体的に言うと問題行動、虐待、貧困、家庭環境、不登校などの課題で、どれも複雑なのでつかんでいないといけない情報も幅広いです。教員は一生懸命取り組んでいますが、学校の中だけで対応するのは難しいです。

たとえば不登校のこどもに教員だけでは

対処しきれないとなったら、年度単位での支援スタッフに入ってもらおうということはできますが、それだけで持続可能かというと、危ういですよね。制度だけでは困難な環境にあるこどもの育ちを保障できない課題を教員たちの渾身の努力で補い続けるのかという、やっぱり違うでしょう。

水木 課題の多い中で学校を先生だけで回していくのは大変で、「学校のため、地域のため」という思いのある人に支えられるほうがいいですね。

河平 地域や市民団体と連携して、強みを生かしたサポートをしてもらえるなら、教員は授業を中心とした活動にもっと集中できます。それはこどもにとって大きなプラスになります。

学校・教育行政内の対話と 連携から始めよう

河平 だから地域や市民団体の人たちとこどもを中心にした話をして、一緒に取り組んでいけばいいんですけど、今まで学校だけでがんばってきた教員は、外の人が関わることで何か問題が起きないか、面倒な



横浜市立永田台小学校視察
(2021年12月)



ことにならないかと恐れてしまう。

そこが、やっぱりハードルになりやすいですね。管理職の意識が変われば当たり前になっていくので、私は校長・教頭とそういう話をいっぱいしています(笑)。

宗木 COCONIさんの提案で視察に行った横浜市立永田台小学校で、ESD担当の先生が中心になって地域連携を進めておられた例がありましたね。

「管理職が変わらないと浸透しない」とよく言われるし、他の視察先や事例では「この校長先生がすごい」みたいな例が多いんですけど、その学校は担当の先生がすごく、学校を動かしている印象でした。

今、「学校の管理職のなり手がいない」とよく聞きます。なり手が少ない中で管理職にあれもこれも期待するんじゃないかと、管理職にはなりたくないけどやる気があるような先生が主体的に行動しているというふう、管理職は見守り側に立つというのもありじゃないかな、と思ったんです。

水木 永田台小は対話の文化があつて、授業もおもしろかったです。

宗木 校区の中に多世代交流拠点のサロンがあつて、地域ともつながっていました。

河平 学校が前を向いて進んでいるところ、どこも教員同士の対話を重視していますね。管理職を含めた教員が同じ思いでやっていくために、時間がかかっても対話を大事にされている。それで、多くの先生がそれを理解して、思っていることを自己開示するし、他の先生の話も聞いています。

これも、視察を通して思ったことですが。教育委員会の中でも、他課とたくさん話をし、つながりを大切にするようにしています。組織の壁を、かなり超えられるようになったんじゃないかな。学校の中、教育行政の中で仲良くなれないと、外と連携するのは難しいし、何も進みません。

こどもたちのために、つながりを重視していきましょう、と最近よく言っています。教員とこども、こどもとこども、保護者とこども、教員と保護者、学校と地域、地域と地域……。

こどもたちがつながれば、こどもたちだけで解決できることが増えます。教員と保護者がつながれば、保護者の不安は軽減されるでしょう。学校と地域がつながれば、こどもが困難に直面したときにほっておかれる可能性はずっと下がります。

つながることがこどもにもたらすものは、本当にたくさんあると思います。

摂津市の公教育と地域・市民団体等の連携・協働実施事項(2021~2024年度)

●2021年度

4月~ 職種体験プログラム

12月 横浜市立永田台小学校視察
*以降、視察多数

●2022年度

3月15日 別府小 対話の時間(先生×先生)
4月 摂津市教育委員会が教員、COCONIで構成される「キャリア教育推進委員会」設置

4月19日 別府小 対話の時間(保護者×先生)
*以降、「対話の時間」多数

●2023年度

6月11日 別府小 PTA室片付け
8月4日 教員研修 *以降、研修多数
9月29日 別府小 赤ちゃんふれあい体験
*24年度も実施

●2024年度

3月23日 別府小 ベンチづくり
5月17日 白鷺園 宿題カフェ開設
5月29日 第四中 校内居場所開設
6月11日 別府小 第1回学校運営協議会開催。コミュニティ・スクールに
*以降、継続

6月30日 別府小 視聴覚室整備(7月)
7月23日 別府小 つながりルーム整備(8月)

11月14日 バクのパン屋さん 宿題カフェ開設
1月31日 ベネッセこども基金助成事業報告会
2月12日 別府小 調理実習サポート
2月21日 第四中 トークフオークダンス実施

別府小Ⅱ摂津市立別府小学校
第四中Ⅱ摂津市立第四中学校

つながる場所の整備と学校運営協議会

人がつながることが、こどもや学校を支える——そんな地域社会は、PTA や自治会の加入率低下にみられるように、現実から遠ざかっています。さらに、コロナ禍の数年間が人と人の分断を加速させたといえるでしょう。

摂津市立別府小学校でも、PTA の任意加入が周知された結果 2022 年度の PTA 加入率は約3割となっていることもあり、先生同士、先生と保護者・地域などで対話の場を持つことから始めました。対話から、校内の居場所候補となった部屋の整備活動や、保護者が授業のサポートに入る例が生まれました。

また、従来からあった学校協議会（9 ページ参照）を、保護者や地域の人に加わった学校運営協議会（同）に再編。コミュニティ・スクール（同）の仕組みができました。

別府小のビジョン「自分らしくいきいきと ～あなたと一緒に」「学校大好き～地域と一緒に」のような学校にするために、また取り組みたい教育を行うために、阻むもの・実現に必要なものなどを考えました。



先生×先生



2023

3月15日

対話の時間

保護者＋先生



先生×先生の対話と同様、別府小のビジョンを受けて「こどもが行きたい学校とは?」「こどもたちのためにできることは?」を考えました。

意見・感想

- 学校、こども、保護者、地域それぞれが混ざり合った関係が作れたら。
- 気軽に楽しく簡単なコミュニケーションの場を作って、こどもも保護者も先生も混ざる。
- 親子懇談会や交流会など。先生方と話す機会も。
- 普段あまりお話することのない先生や教育委員会の方々と、親としての気持ちや先生方の考え方などいろいろ話ができた。
- 話しやすい雰囲気の中で意見を交わすことができた。

2023

4月19日

対話の時間



学校に協力してくれる人は
思った以上にいました。

摂津市立別府小学校
田中健一郎 校長

4年前に校長になってみて、学校、こども、保護者、地域のあらゆる問題が学校に持ち込まれることを実感しました。コロナ禍も重なり、問題が押し寄せてきましたが、私も答えがなく孤立感を抱きました。

学校関係者以外の人はどう思っているんだろう。もしかしたら、学校の外に学校を助けてくれる人、こどもたちに学びの機会を与えてくれる人がいるんじゃないか——そう考えて、身近なところから協力してくれる人を探し、ダメもとでいろいろな人に働きかけました。

すると、思った以上に協力してくれる人がいると分かりました。存在すら知らなかった「地域コーディネーター」やNPO。PTAの方も、じっくり話すといういろいろなアイデアや意見をお持ちです。

結果として、そうした方が学校運営協議会のメンバーになり、本校の応援団の核になってくださっています。4年前に孤立を感じていた自分に教えてあげたいですね。

先生×先生の対話と5月の学校協議会で「居場所」スペースの候補のひとつとなったPTA室を片づけることに。PTA本部役員と保護者・児童、地域の方、校長先生などが協力し、すっきり広いPTA室になりました。



学校×地域
+ 保護者



先生×先生

先生×先生の対話の時間を持ち、「学校にあったらいいなと思う居場所」について話し合いました。

その後も23年11月、24年10月・11月に先生×先生、保護者×先生の対話の時間を持ちました

2023
6月11日

PTA 室の片づけ

2023
6月1日

対話の時間



学校協議会

保護者や地域住民の声を学校運営に反映し、また校長の求めに応じて、地域住民・保護者・有識者等がさまざまな視点から意見交換や提言を行う組織。

学校運営協議会

教育委員会から委嘱・任命された地域住民や保護者、学識経験者などが委員となり、一定の権限と責任をもって学校運営に関わる会議体。文部科学省の政策となっていて、学校運営協議会が設置された学校を「コミュニティ・スクール」という。

従来から開催していた学校協議会をベースに、24年度から学校運営協議会をスタート。

別府小の学校運営協議会の委員は、校長、教頭、PTA会長、地域コーディネーター、青少年指導員、元PTA会長、商工業経営指導者など学校を応援している多様な人たちにCOCONIが加わっています。6月11日の第1回のあと、年度内に計7回開催しました。

学校と地域で情報を共有し、校区のこどもたちにどう育ってほしいか、学校や教育の課題は何かなどを話し合っています。



第2回学校運営協議会（6月27日）の様子



企業も一緒に、保護者主体から地域主体へ。

摂津市立別府小学校 PTA 会長
奥田祐司さん

2023年春に娘が別府小に入学。PTAは任意でしたが、加入しました。24年度初め、役員のなり手がおらず困っていると聞いて手を挙げて、気づいたら会長になっていました（笑）。

11月に開催したPTAまつりは、コロナ禍も明けたので大規模な開催をめざし、7月頃からPTAで話し合いました。役員も少ないし、地域の企業の力を借りられるよう、例年いっていた出店料を廃止し、代わりに自主運営をお願いしました。保護者や大学のブースを含めて20以上のブースが立ち、今までなかったようなワークショップなどとしてくださって多彩になり、大盛況でした。

保護者だけで頑張ろうとしても、続きません。PTAまつりが地域主体のまつりになり、協力企業の方などが学校やこどもに関わってくださるきっかけになればと思っています。

コミュニティ・スクールは自由度が高く設計しやすいんですけど、「自由度が高いので、何をしたいのか分からない」という声も聞きます。教員や保護者、地域の人などが一緒になってワイワイ話せて、教員が地域の人の意見を聞き、こどもの意見を聞いてみようという意見があったらこどもに聞く。それを保護者や地域の人に返してみんなで考えてみる、といったことでもいいんです。

摂津市では、2025年度にコミュニティ・スクールが5校になる見込みです。地域との連携・協働を広げる仕組みとして、コミュニティ・スクールはいちばん活用できるものだと思います。

できない理由はいくらでも出せますが、「一緒にやっていこうよ、こどもたちのために」というマインドだけあればいい。決して難しいことじゃないんです。（河平浩一さん）

2024

6月11日

第1回 学校運営協議会

地域コーディネーター・地域の方・
保護者による授業サポート



(上段左から) 4年生クリーン作戦／2年生校区探検・摂津市民図書館見学、(中段左から) 2年生理科授業／1年生むかしあそび体験、(下段左から) 2・5年生赤ちゃんふれあい体験／5年生家庭科授業

行事や授業のお手伝い
から始めませんか？

地域コーディネーター
鮫島直美さん



息子が小2の時、利用していた「わくわく広場」(放課後こども教室)の指導員になり、大阪府の「地域コーディネーター養成講座」に参加。修了後「摂津市地域コーディネーター連絡会」に加わりました。別府小から連絡会に地域コーディネーターの紹介依頼があり、校区の私に対応することに。別府小では読み聞かせ活動もしていましたが、学校協議会や授業のサポートに関わるようになったのは、連絡会を介してです。

まず取り組んだのはクリーン作戦と校区探検サポート。こどものインタビューに対応いただけるか、校区の学校との間に壁を感じている保護者も多いかもしれません。行事手伝いなどから、気軽に始めてほしいです。



「居場所」スペースのもうひとつの候補になった視聴覚室の固定テーブルを24年6月に撤去。その廃材を使って、座卓を作りました。

座卓の足は、こどもたちが思い思いにペイントしました。使いやすい、広々した部屋ができました。



別府小では、教室に入れないこどもたちが図書準備室で過ごせるようにしていましたが、エアコンがなかったため図書室を「つながりルーム」として整備しました。(その後、図書準備室にエアコンが付き、つながりルームは図書準備室に引っ越しました)



2024

7月27日

視聴覚室の座卓づくり

2024

7月23日

つながりルームづくり

校内居場所の設置、運営



教育委員会 NPO
第四中

不登校の児童・生徒は全国で34万人を超え、摂津市でも年々増えています。長期化すると、学びの遅れに加えて将来のひきこもりにつながる可能性も指摘されています。

教室に入りにくくなった子どもたちが安心して過ごし、自信を取り戻せる場所を作るため、摂津市では全校に校内教育支援ルームを設置していますが、こどものそれぞれの事情に合わせるということは難しい状況があります。

そこで、摂津市立第四中学校は2024年5月、COCONIと協働で「校内居場所」を開設しました。校区内の別府小学校との連携も視野に入れ、学校や教室に行きにくい生徒が別室で学べる場所と、誰もが来られる居場所の2つの機能をひとつの場所で使い分けるといったチャレンジをしています。

視聴覚準備室を居場所に転用することが決まり、学校の協力を得て、校内居場所のスタートアップが中心になり室内を整備。校長先生から大きなぬいぐるみのプレゼントも！

「校内居場所」の設置をテーマに、職員全員で研修会を開催。説明を聞いたあと、課題や可能性についてグループで話し合われました。



荒木智雄校長先生・盛園正人教頭先生が教育委員会とCOCONIから「校内居場所」について聞き、視察にも行って、「やってみようか」

2024

4月・5月

室内整備

2024

4月3日

職員研修

いっどこであいてるの？

ほぼ「毎週金曜日の放課後」
「4階 視聴覚 準備室」でOPEN！

だれでもいっていいの？

四中の生徒さんなら誰でもおこしく下さい。
先生に言わなくても、予約しなくても
昼休みと放課後、空いている時間内なら出入り自由です！
家に帰る前や部活の前にちょっと一息、ふらっと立ち寄って、用事はなくてもOK！
どの学年でも、時間があっても、いそがしくて5分だけでも、
目的があってもなくても、一人でも、みんなでも、
とにかく誰でも大かんげいです。

なにがあるの？

はあっていうゲーム、ウボンゴ、パズル、けん玉、オセロ、
ジェンガ、4目並べ、お絵かき、ブロックス、トランプ、マンカラ
ウノ、ガムトーク、タギロンなどなど…。
うわぐつをぬいでくつろぐ畳のスペース、
ひとりでゆっくり過ごしたり、絵を描いたり、だれかとおしゃべりや
あそびをたのしむためのものなどを用意しています。

夏が長すぎませんか、
やっとあつさをやあらいできを気がしますあ。
最近「あ、今日よつばの日かあ〜」と
声をかえけられることが増えてきました。

みなさんの学校生活の中に少し馴染んできている感じが
じんありうれしいです。
ふと悪い出したとき、ふらっと近くを通ったとき、
またー におしゃべりでもしましょう！

もちろんなんでもないときでも大更良
一息つきに、来てもらえたらと願います。

by ありた



第四中学校 サードプレイス よつば



11-12月のOPEN

- ・金요일にopen
- ・時間内なら出入り自由
- ・放課後から17:00まであけてます
- ・11/22 12/20 12/25 12/26
の4日間はお弁当持参で参加OK

11/1 12/6
11/8 12/13
11/15 12/20
11/22 ↑放課後～15:00
↑テスト終了後～15:00
11/29

12/25 12/26
●ふゆ休みも10:00-15:00で
2日間あけます！

校内居場所「よつば」「スタディルーム」

場 所 第四中学校 4階 視聴覚準備室を転用
(隣室のパソコンルームと視聴覚室の使用も有)

開室日時 ほぼ毎週金曜日

- ・昼休みと放課後17時までの間、誰でも出入り自由の「よつば」
- ・授業時間中、教室外で学ぶ場「スタディルーム」
- の2つの機能を持つ場所として開設。

担当の先生らとCOCONで、開設
準備・運用について調整・打ち合わせ
を重ね具体化。オープンの5日前、校
長先生・教育委員会・よつばスタッフ
が出演する案内動画を公開しました。

2024

5月24日

校内居場所スタート



利用する生徒の声

安心できる
場所

行きやすい

週に1回は
こようと思う

開催日数・利用生徒数

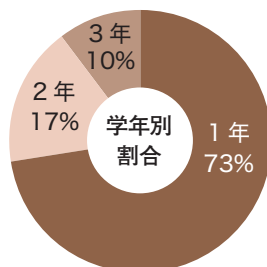
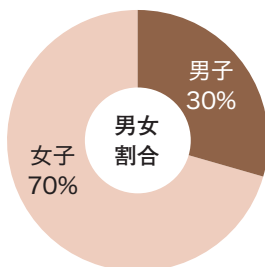
開催日数

34日（2024年5月24日～2025年3月31日）

よつば 1日あたり平均利用者数

(人)

月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
昼休み	6	10	5	15	10	11	10	26	47	25	5	170
放課後	10	9	7	18	12	11	10	10	14	10	8	119
小計	16	19	12	33	22	22	20	36	61	35	13	289



2024年5月～12月の
利用者から算出



教員の対話から始まる

NPOと作る校内居場所

システムとして取り組めることを

荒木校長 不登校という課題を考える前提として、対象生徒は3層あります。

まず、学校に全く顔を見せない、完全に不登校の生徒。次に、学校には来るが教室に入りづらい生徒。最後に、教室にいるが学びに参加しない生徒——教室から出ていくこともある生徒ですね。

こうした生徒に対して教員は、足しげく家庭訪問をするなど懸命に対応しています。それに加えて「システムとして学校ができることはないか」と考え、教育委員会から持ち掛けられた校内居場所設置に取り組むことにしました。

盛園教頭 素地として、不登校の生徒が多いので居場所が必要という共通認識が、教員の中にあっただんです。学校に来にくい生徒を、学校という枠組みではないところで何とか受け入れられないか、という。

校内教育支援ルームは整備しましたが、対応するのはやはり教員など学校側の人間です。それは、生徒にとってはもしかしたらハードルになるのかもしれません。そんな中で、学校と生徒・親・子どもという縦の関係ではない、地域の大人との「斜めの関係」を持ち込んでどうかという話が校長

からあり、私から教員に持ちかけました。

教員の不安を話し合う

盛園教頭 教員の不安は、やはり大きかったです。外部の人が入ると何か対応が必要なのが生じるのではという懸念がどうしても先に立ってしまい、一歩を踏み出すのをためらうんですね。

そこで大事にしたのが「対話」です。検討を始めた4月に教員全員の研修の場を設けて、校内居場所についてCOCONの水木さんの説明を聞き、そのあと不安なことやリスク対策などについて、時間をかけて話し合いました。

荒木校長 教員は、私を除いて（笑）心配性なんです。確かに担任教員の立場に立つと、いろいろな人が関わってくれるのは嬉しい一方で、最後は担任がやり遂げなければならないという責任のしかかります。最終的な責任は担任にあるので、話し合って不安が解消したのかというと、実はしないんです。しないんだけど、自分たちの思いを出せたことと、入っていただくことになる居場所スタッフの思いを聞いたことが、ひとつのきっかけになったと思います。「やってみよう」ということになり、開室にこぎつきました。

盛園教頭 「やつぱり自分たちだけで、なんとかしなくちゃ」という考えは教員の中にあっただけですが、校長先生がいろいろな場で言い続けることで、変わっていった感じがします。

教室にいても授業に参加しない生徒も対象

荒木校長 私は最初、生徒の3層のうち「学校には来るが教室に入りづらい生徒」のための場所

になると思い「やろう」と言っただんですが、4月の研修で水木さんが「教室にいるが授業に参加できていない生徒」も対象では、と言われたんです。

現場の思いとしては、生徒にはまず教室にいてほしい。教室にいるならいいじゃないか、と考えたくなります。でも確かに、教室にいても勉強していないのだったら、「他の場所にいてもいい」ともいえます。私を含めて、教員のマインドセットが必要でした。

一方で、教員が一番いやなのは「たまり場」になることです。だから、制度設計はしっかり考えました。休み時間と放課後は、誰でも行けてワイワイできる。一方授業時間は、教室の勉強とは違う雰囲気「学習の場」です。名称も、「よつば」と「スタディルーム」と使い分けることにしました。結局、教員も両方「よつば」というようになってるんですけど（笑）。

2学期からはにぎわってきて、生徒が結構集



摂津市立第四中学校
盛園正人 教頭



摂津市立第四中学校
荒木智雄 校長

まっています。最初は「ひとりで来る」というルールを作り、スタッフと1対1の関係を原則にしましたが、人数が増えると物理的に無理になります。グループで固まってしまうので、1日の内よつばで過ごす時間を担任が1時間だけとか2時間だけとか区切つての利用を試しましたが、必ずしもうまくいきません。

盛園教頭 授業時間によつばで過ごす生徒の様子を見ていると、葛藤があります。卒業した後の学校や社会に対応できるだろうか、という。

授業に出ているも高校進学後に中退してしまう生徒はいますので、居場所を利用したから適応できなくなるわけでもないですが、悩むところですよ。

荒木校長 ただ、教室にいても勉強しない生徒が、よつばに行つてスタッフと過ごして何かを学んでいるともいえる。整理しにくいですが、少なくともエンパワメントになっていると思います。

課題はあるがトライ&エラーで

荒木校長 もうひとつの課題は、完全に不登校の生徒にはまだ手が届いていないことです。

それから、今のよつばスタッフはCOCCONIさんのスタッフやその紹介で来てくださる専門性のある方ですが、地域とのつながりがあるわけではありません。今後は、地域の方にもっと学校に関わってほしいですね。

そういう課題はありますが、トライ&エラーで模索しながら、続けていきたいです。



円陣の外側に生徒、内側に大人が座り、簡単な「お題」について向かい合ったペアで1分ずつ話します。話し終えたら、生徒が隣の椅子に移動し、次の大人と話す——というプログラムです。

1年生と同数の120人の大人が必要で、直前まで人数が読めず気をもみましたが、当日は見事！120人の大人が輪になりました！



ファシリテーター

西川 正さん

(特定非営利活動法人ハンスオン埼玉副代表理事／真庭市立中央図書館館長)

1年生全員を対象に、
大人と交流するプロ
グラムも実施しました

2025

2月21日

トークフォークダンス
「大人としゃべり場」

ケース3 宿題カフェ

「宿題カフェ」2カ所が誕生

近年、地域に「こどもの居場所」が必要といわれるようになってきました。摂津市内には児童センター1カ所と、民間団体・事業者によるこども食堂17カ所（2024年10月現在）がありますが、24年度は新たなこどもの居場所として「宿題カフェ」が2カ所できました。鳥飼中の「白鷺園」と、千里丘東の「バクのパン屋さん」です。

宿題カフェは、民間団体・事業者などが、放課後こどもが来て宿題をするスペースを提供する事業です。あくまでも主催者の地域貢献としての取り組みで、「公園のような場所」です。

教育委員会は宿題カフェの「のぼり」とチラシを作り、チラシは校区の学校から児童に配布されます。こどもは「のぼり」があるときは好きな時に来ることができ、入室簿に名前を書いて宿題を始めます。宿題が終わったら、「ごほうびジュース」をもらいます。

食事の準備が必要なこども食堂と比べて主催者の負担が少なく、開催頻度を増やしやすいため、市内の2カ所も原則として毎週されています。学習習慣を身につける助けになるとともに、こどもの様子を毎週見守ることで早期の支援につながりやすくなります。

宿題カフェ利用の流れ

「のぼり」が出ていたら開催中。



名前を書いて……



注意点を守って入り、宿題開始。



白鷺園「宿題カフェ」

主催	社会福祉法人桃林会
協力	摂津市教育委員会
名称	白鷺園・遊育園 カフェまことそら 宿題カフェ
場所	鳥飼中1丁目19-9 カフェまことそら、鳥飼中1丁目19-8 勝安寺
日時	「のぼり」が出ている金曜日（長期休暇以外ほぼ毎週） 午後3時～5時（鳥飼小学校の授業時間により変更有）

摂津市で宿題カフェを検討する社会福祉法人桃林会と教育委員会事務局、COC ONIが、特定非営利活動法人トイボックスが門真市と連携して実施している宿題カフェを視察しました。

2023年夏、COC ONIが予定していた大阪府門真市の事業「子どもLOBBY」視察に、摂津市教育委員会事務局が同行。そこで知った「宿題カフェ」を運営する特定非営利活動法人トイボックスを紹介いただき、同法人が大阪市内で取り組んでいる宿題カフェを、教育委員会事務局とCOC ONIが視察しました。

2024

5月17日

白鷺園「宿題カフェ」開設

2024

2月28日

視察

白鷺園「宿題カフェ」

こどもが楽しそうにしていると、こちらも嬉しくなる。元気をもらえます
(ボランティアの
中島誠人さん)



宿題なかったから
ジュースもらえ
へん



れれのもの段を
言ってみて。言えたら
飲んでいいよ

白鷺園は、特別養護老人ホームなど高齢者向け福祉サービスを提供する事業所です。もともと地域貢献活動としてこども食堂を月2回開いており、こども食堂に来てくれた鳥飼小学校のスクールソーシャルワーカーさんが「教育委員会です宿題カフェに取り組むようで、実施団体を探しているらしい」と教えてくれました。月2回でこどもの見守りができているのか、ちょうど疑問に思っていたタイミングでした。

2024年2月に門真市の宿題カフェを視察させてもらい、「ぜひやってみたい」となって5月にスタート。視察で見たこどもは10人くらいだったので、テーブルが4つある無人カフェスペース「カフェまことそら」を会場にしたのですが、初日に24人のこどもが来てくれて、ぎゅうぎゅうに。のちに、隣接する勝安寺のご厚意で広いお堂を使うことになりました。

青少年指導員の方がボランティアで来てくださったたり、地元の会社からお菓子やジュース代の寄付をいただいたりなど、地域からも支えられています。



社会福祉法人桃林会 白鷺園副施設長
堤省吾さん

お寺や地域と協力して
つくる居場所。

バクのパン屋さん「宿題カフェ」



つながりにくい人が
つながれる居場所に。

社会福祉法人光摂会 理事・統括施設長
吉田典生さん



社会福祉法人光摂会「バクのパン屋さん」、宿題カフェ開設を検討。
先行する白鷺園の宿題カフェを視察。

光摂会の施設は、2024年2月に建て替え移転しました。1階にある「バクのパン屋さん」は、障害のある方が働くパン屋さんで、新施設にはカフェスペースを設けました。地域に開放するというコンセプトを持つスペースです。

ここでも何かできないかと考えていたところ、教育委員会事務局の飯野祐介さんが宿題カフェのことを教えてくれました。地域を知る第一歩にもなりそうなので、始めることに。オープン日は、高学年を中心に19人が来てくれました。親子連れや幼稚園児もいて、にぎわいました。ただ、誤解を恐れずにいえば、にぎやかな場所を作りたいわけじゃないんです。

障害者の自立について、「依存先を増やすことが自立だ」という考え方があります。細くてもたくさん先のつながりがあれば、ひとつが切れても他のつながりがあります。何かあったら、つながりのどれかから誰かが気づきやすくなります。見捨てられるようなことにはなりません。

そんなつながりのひとつとして来てもらえて、僕らとの近さや関わる密度も、それぞれに合う位置を選んでもらえたら。例えば集団の場が苦手な子、社会との接点が薄くなりがちな子でも、安心してゆるくつながっていただけるような居場所でありたいです。

2024

11月14日

バクのパン屋さん「宿題カフェ」開設

2024

8月

視察



地域と結びつける仕組みも つくっていきたい。

摂津市教育委員会事務局 こども家庭部こども政策課
飯野祐介 課長

2023年7月に、COCCONIさんに誘われて門真市の「子どもLOBBY」を視察。そのとき初めて「宿題カフェ」の存在を知りました。こどもに身近なそれぞれの地域にこどもの居場所があるべきと考えていたのですが、市の財源で設置していくことは難しく、また、市内では多くの団体やお店がこども食堂を運営してくださっていますが、こども食堂だけで地域におけるこどもの居場所の役割を担うことも困難だと感じていた頃でした。宿題カフェは、調理や片付けなど、多くの手間や費用がかかるこども食堂より負担が少なく、摂津市でも取り組みを展開できるのではと直感しました。

オープンされた2カ所は、以前から接点のあった福祉施設です。宿題カフェがもっと知られるようになれば、飲食店や事業所などでも始めやすくなるでしょう。公共施設の有効利用も期待できます。今は、運営は法人の職員の方がほぼされていますが、地域のボランティアなどがもっと関わってくださるようになれば、こどもを見守り支える力はさらに高まります。

学校には、学校教育課から開催曜日や内容を知らせて調整し、チラシ配布を依頼しています。こどもに参加を呼び掛ける事業は、「どんな受け入れ先なんだろう」と親は警戒するものですが、学校を通して案内することで、信頼してもらいやすくなると思います。

困難を抱えるこどもや家庭については、できるだけ早く支援に結び付ける必要がありますが、そのようなこどもや家庭を行政だけで探し出し、アウトリーチすることは容易ではありません。地域の中にこどもを見守る体制があり、学校や行政と連携できるようにすれば、こどもを守る強い安全網になります。宿題カフェは、そのひとつになれると思います。そのためにも、宿題カフェの数を増やしながら、地域と結びつける仕組みもつくっていききたいですね。



家庭で学習する環境が整わないケースもあるでしょうから、家庭以外の第三の居場所である「宿題カフェ」で宿題ができることは、学力向上の面からも期待できます。

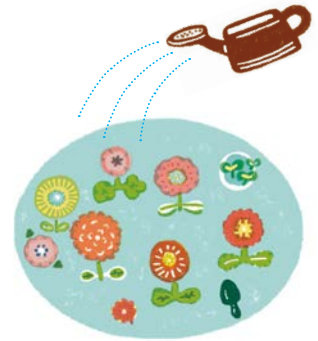
家庭で「宿題はしたの?」と聞かれて「カフェでやった」と答えられたら、ほめられてポジティブになります。いろいろな点で望ましいと思っています。

(河平浩一さん)

バクのパン屋さん「宿題カフェ」

主 催	社会福祉法人光摂会
協 力	摂津市教育委員会
名 称	光摂会 バクのパン屋さん 宿題カフェ
場 所	千里丘東5丁目12-6-2 バクのパン屋さん
日 時	「のぼり」が出ている木曜日 (長期休暇以外ほぼ毎週) 午後3時～5時 (摂津小学校の授業時間により変更有)

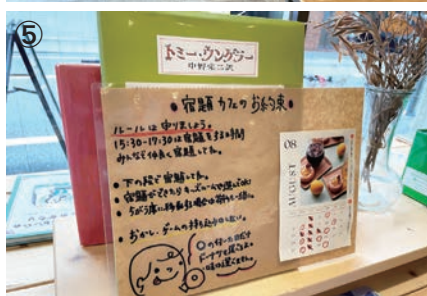
視 察



宿題カフェ開設のきっかけが視察だったように、他校・他地域の取り組みを見聞きすると、新たな発見や気づきが生まれることがよくあります。

左表に、5ページで言及された2021年の視察と22〜24年度の視察をまとめました。いずれも、学校や地域でこどものための取り組みをされている方に参考になる事例です。摂津市の学校関係者と教育委員会、COCORON等が訪問し、多くを学ばせていただきました。視察を受け入れて対応くださった皆様に感謝いたします。

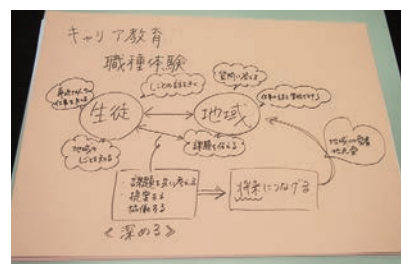
訪問時期	視察先 ※（ ）は視察先職員以外に対応くださった方	視察テーマ	地域
2021（令和3） 12月	● 横浜市立永田台小学校	コミュニティ・スクール	神奈川県横浜市
2022（令和4） 9月	● 横浜市立鴨居中学校	不登校予防	神奈川県横浜市
	● 横浜市立東山田中学校 （地域学校協働活動推進員、地域・学校コーディネーター、横浜市立東山田中学校ブロック学校運営協議会、NPO法人つづき区民交流協会）	コミュニティ・スクール	神奈川県横浜市
11月	● 三鷹の森学園 三鷹市立第五小学校	コミュニティ・スクール	東京都三鷹市
	● 武蔵野市立ひと・まち・情報創造館 武蔵野プレイス 写真①	ユース、居場所	東京都武蔵野市
	● 東京学芸大学 こどもの学び困難支援センター	貧困、不登校対策	東京都
	● 杉並区立児童青少年センター ゆう杉並 写真②	ユース、居場所	東京都杉並区
2023（令和5） 2月	● 戸田市立笹目小学校「ぱれっとルーム」	不登校対策	埼玉県戸田市
	● 戸田市教育支援センター「すてっぷ」	GIGAスクール、適応指導教室	埼玉県戸田市
	● 川崎市子ども夢パーク	こどもの権利、居場所	神奈川県川崎市
	● 大阪市立市岡中学校	校内居場所	大阪府大阪市
5月	● 尼崎市子どもの育ち支援センター いくしあ	ユース、居場所、こども支援	兵庫県尼崎市
7月	● 門真市「子どもLOBBY」 写真③	こどもの貧困対策、居場所	大阪府門真市



2024 (令和6)	2月	12月	10月	8月
●門真市民文化会館 ルミエールホール TSUMIKI COFFEE E他、市内の宿題カフェ計3カ所	●岐阜市立草潤中学校	●大阪市立茨田中学校	●特定非営利活動法人トイボックス TSUMIKI COFFEE 幸町店 写真④⑤	
5月	8月	10月	8月	
●豊中市シヨコラ・こども未来部 写真⑥ (豊中市こども未来部はぐくみセンター、とよなか子どもの居場所ネットワーク)	●大東市教育支援センター「ボイス」、大東市立四条中学校他 (三宅町教育委員会、三宅町みやけイノベーション推進部、スクールソーシャルワーカー)	●茨木市ユースプラザSOUTH「ベンボスタ・ぱーちスペース」	●茨木市子ども・若者支援地域協議会	
居場所、こどもの貧困対策	不登校対策、居場所	ユース、不登校対策、居場所	ユース、居場所	こども・若者支援
大阪府豊中市	大阪府大東市	奈良県三宅町	大阪府茨木市	大阪府茨木市
大阪府門真市	岐阜県岐阜市	大阪府大阪市	大阪府大阪市	大阪府大阪市

研修

2022～24年度、摂津市の学校関係者と教育委員会等を対象とした研修に、COCONIなどが協力させていただきました。25年1月の研修会は教員・地域の人など80人を超える参加があり、3年間の取り組みをふりかえるとともに、学校別グループワークで学校のこれからが活発に話し合われました。



摂津市「地域とともにある学校づくり」研修会

～学校、NPO法人、地域、保護者、教育委員会との連携～

ー「ベネッセこども基金」助成事業報告会ー

日時：1月31日（金）15：00～17：00 ※受付14：30～15：00

場所：摂津市立コミュニティプラザ コンベンションホール

変化の激しい社会の中で、学校や地域を取り巻く課題はますます複雑化、多様化しています。その中で、摂津市はNPO法人COCONI（2022年度～2024年度ベネッセこども基金を受託）とともに、子どもたちが明日への希望が持てる教育や支援の在り方を考え、学び、取組みを進めてまいりました。いまだ道半ばではありますが、3年間のあゆみをお伝えいたします。行政とNPO、地域、保護者など、子どもに関わる多様な大人がつながることで広がる子ども支援を共に考えてみませんか？

スケジュール

〈報告 15：05-15：20〉

これまでの取組み報告／NPO法人COCONI代表 水木 千代美

〈事例発表 15：20-15：50〉

進行／摂津市教育委員会 教育総務部副理事兼学校教育課長 河平 浩一
事例①宿題カフェ：摂津市教育委員会こども家庭子ども政策課長 飯野 祐介
事例②コミュニティ・スクール：別府小学校 校長 田中 健一／指導主事 馬田 健太
事例③学校内居場所：第四中学校 校長 荒木 智雄・教頭 盛岡 正人



宿題カフェ



別府小学校



第四中学校

〈パネルディスカッション「つながることのできること」 15：50～16：15〉

進行／ベネッセこども基金 事務局長 青木 知宏さん
摂津市教育委員会 教育総務部副理事兼学校教育課長 河平 浩一／
摂津市教育委員会 こども家庭子ども政策課長 飯野 祐介／
別府小学校 校長 田中 健一／ 第四中学校 校長 荒木 智雄

〈グループワーク 16：15～16：45〉

学校別グループ熟慮対話の時間と共有

〈調評 16：45～16：55〉

トヨタ財団プログラムオフィサー 藤澤なつみさん
文部科学省総合教育政策局地域学習推進課 榎木 奨悟さん
ベネッセこども基金 青木 知宏さん

〈つながりタイム 17：10～17：50〉

※ゲスト・参加者との名刺交換タイムを設けます。
お時間がある方はご参加ください。

〈アクセス〉

摂津市立コミュニティプラザ（摂津市南千里丘5-35）
最寄り駅：阪急京都本線／摂津市駅 東改札口から徒歩 120m

主催：摂津市教育委員会 共催：NPO法人COCONI
問合せ先：摂津市教育委員会学校教育課
NPO法人COCONI (info@coconi.or.jp)

「大人がつながることによって広がる子ども支援」



「やらされる」のではない視察・研修をしよう

学校や教育委員会で日々の仕事をしている中では、やらなければならないことに忙殺され、新しい視点を取り入れる機会は少ないです。

COCONIさんから聞いた先進事例や画期的な研修の情報は興味深いものが多く、視察や研修に取り入れさせてもらいました。先進事例の視察では、「地域や学校が違えば、こんなに違うことがあるんだ」「こんなにビジョンをしっかりとって、こどもたちや学校運営のことを考えている人がいるんだ」と知りました。

視察や研修は、「やらされている」と思ったとたんに意欲が下がります。それで、摂津市では「学校マネジメント支援補助金」の制度を設けて、「この先進校を見に行きたい」「この先進事例の話を聞きたい」などの自発的な意欲を応援できるようになっています。自分の学校の課題、目の前のこどもたちの課題のための学びに、活用してほしいです。（河平浩一さん）

こどもたちのセーフティネットは、 大人がつながることから

経済的な困難をはじめ、さまざまな課題を抱えるこどもたちを支えるためには、学校や保護者、地域、NPOなど、こどもに関わる身近な大人がつながり合う「こども支援ネットワーク」を構築することが必要だと、COCONは考えています。

「つながること」の重要性を研究してきた志水宏吉氏によれば、かつて学力との相関が最も強かったのは経済力だったが、現在では経済力の影響以上に「つながり」の有無が学力と深く関係しているとしています（データ1125ページ、以下同）。この結果は、私たちが日々の活動の中で感じている実感とも一致しています。

また、レジリエンス（逆境からの回復力）においても、周囲の人々の支えが大きな役割を果たすことが研究で明らかにされており（データ2）、こどもを取り巻く大人たちの存在の重要性が見えてきます。

“the right to express those views freely”（自由に意見を表明する権利）という言葉は、子どもの権利条約（データ3）第12条に記されており、「意見表明権」や「参加の権利」とも呼ばれます。ここで使われている「view」には、「光景」や「景色」といっ

た意味もあり、大人はこどもを見守り、こどもが言葉にしない態度や様子を見取り、「声」として受け止める力を持つこと。こどもが困った時には、大人を頼れると感じ、思いを表現できる環境を整えること。そして必要な支援に関する大人が連携して対応することが求められます。

現在、日本ではこどもの約9人に1人が貧困状態にあると言われています（データ4）。こうした厳しい現状の中で、こどもたちの声に耳を傾け、その思いを丁寧に受け止める「こども支援ネットワーク」が、今まさに求められています。

* *

本事業を通して見えてきた、共にかどもを支えるために大切にしたい3つの力をご紹介します。皆さまの取り組みの一助となれば幸いです。

●受縁力・応援してもらう力

COCONが摂津市教育委員会の先生方とつながることができたのは、それぞれが課題や理念を持ち続け、その思いが重なったことがきっかけでした。また、COCONやFAIRROADといったNPOと学校が協働できたのは、学校長が課題解決に向けて外部の力を求め、NPOがその思いに応えたいと考え

たからです。

本事業では、教育委員会の担当範囲を超えて、共通の課題や理念に向かって連携・協力する姿勢があつたことが、新しい取り組みの実現につながりました。

●協働力・異なる立場の人々が目標を共有し、共に活動する力

教員に異動があるように、PTAや地域の役職も定期的に変わります。こうしたメンバーの交代によって、積み重ねてきた取り組みが突然中断してしまうこともあります。

だからこそ、教員だけでなく、保護者や地域の方々など、多様な立場の人々が日頃から共に考え、対話を重ねながら、学校の文化そのものを一緒につくっていくことが大切です。このような積み重ねが、変化に柔軟に対応できる「協働力」を育む土壌となります。

摂津市では現在、コミュニティ・スクールの導入が進められており、この仕組みが機能することで、保護者や地域の方々が学校の力強い応援団として関わる姿が少しずつ広がっています。

●対話力・対話を通じて他者と理解を深め、関係性を築き、問題解決や合意形成につなげていく力

「何をするか（手段）」の議論に終始するのではなく、「なぜそれをするのか」「何のために取り組んでいるのか」という根本的な目的に立ち返るためにも、対話の場と対話の力「対話力」が欠かせません。

本事業では、教育委員会のビジョンや学校教育目標、「ありがたい学校の姿」や「子どもたちのために大切にしたいこと」について、先生同士はもちろん、時には保護者や地域の方も交えた対話の場を重ねてきました。こうした時間は非常に好評で、「あたたい学校」や「地域との信頼関係」が着実に育まれている実感があります。

* *

こどもたちのそばには、安心して頼れる大人の存在が欠かせません。その大人たちのつながりが、こどもたちの未来を支えるセーフティネットになると、私たちは考えています。「受縁力」「協働力」「対話力」——この3つの力を大切にしながら、できることから少しずつ。

地域の誰もがこどもの応援団になれる、そんな環境を一緒につくっていかれたらと思います。

NPO法人COCON代表理事

水木千代美

2023年4月1日に施行されたことも基本法（データ5）、またそれを受けてのことも大綱（データ6）の内容に関心のある人はどれだけいるでしょうか。こどもに関する法律ができて、大人の側に責任感が生じないとしたら、その法律はいいかどうかで効力を発揮できるでしょうか。残念ながら当事者である「こども」は訴訟能力を有しないとされているため、大人社会の責任感の醸成なしには、この法律は機能することができません。

第2次世界大戦中のナチスの暴威を経験した人々が、弱いもの、小さき者（こどもたち）が犠牲になったという歴史への痛切な反省をこめて生み出したのが、国際条約としての「子どもの権利条約」でした（条約案を国連に提起したのは戦時下ナチス支配を経験したポーランドというヨーロッパの小国でした）。日本の条約批准は他国にずいぶん遅れましたが、ここ

にきて上述のようなこどもをめぐる大きな政策的転換が続いています。

こども大綱には、こども真ん中社会について、「不安や悩みを抱えたり、困ったりしても、周囲のおとなや社会にサポートされ、問題を解消したり、乗り越えたりすることができ」社会という説明があります。またこどもの貧困は、「経済的な困窮にとどまらず、学習面や生活面、心理面など様々な面において、こどものその後の人生に影響を及ぼすものである」という認識に立ち、「こうした貧困の連鎖を断ち切るためには、子育てや貧困の問題を家庭のみの責任とするのではなく、社会全体で解決することが重要」というのが政府の見解です（『令和6年版こども白書』より）（データ7）。

社会が困窮状態にあるこどものことを「こども自身の問題」や「家庭の問題」に閉じ込めてしまい、見えないものとして扱うとしたら、それは大人社会の有り様の問題です。私たちが気が付かない

ちに勝手に課題が解消していればいいなあ（なかったことになればいいなあ）、というのは甘い考えで、まずは気付くところから、そしてそれを「誰か（you）の問題」ではなく「私たち（we）社会の問題」と捉え直すことからしか、課題解決に向かう方法はないと思います。貧困状態にあるこどもたちが居場所を奪われ不安を抱えたまま大人になるのではなく、どこかでその不安と孤独から解放されることが必要です。そのため

にはまず抱えている不安や悩みを否定されることがなく安心して共有できる場と関係性がなくてはならないと考えます。

グローバル社会の進展は、「世界中が友達」になるような、人類にとつての夢が描ける融和的社会であると同時に、無条件に巻き込まれる苛烈な競争主義社会の危険性も付きまっています。成果主義や成績主義に向かって加速する行き過ぎた競争主義は、むしろ人々の関係を断ち切ることで疲れさせ、

全ての人を他責的、自責的にさせ、弱いもの、小さき者に犠牲を強います。

社会の進む方向性が、弱肉強食ではなく、こどもを含む私たちすべての関係性を豊かにするものであるかを問い直す必要があります。そのことがひいてはこどもの貧困という課題を解決する一助となるのだと理解しています。

とはいえこのように関係主義を称揚しても、こども支援ネットワークの構築は簡単なことではありません。すべての世代を社会の正式なメンバーとみなし、「支援する人／支援される人」に分けることなく、アンテナを張り、対話しつながら続けることで、気が付いたらその関係性の中に貧困という課題を抱えたこどもたちも抱合されている、それが本取り組みが目指したものだといえます。今回、行政や地域、NPO、学校、保護者といった垣根を越えてこのような冊子を刊行できたことも貴重な経験です。

参考データ

データ 1（経済格差からつながり格差へ）

志水宏吉『「つながり格差」が学力格差を生む』亜紀書房、2014 年

志水宏吉氏は「離婚率の低さに示されるような家庭・家族と子どものつながり、持ち家率の高さに現れるような地域・近隣社会と子どものつながり、不登校率の低さに結びつくような学校・教師と子どもとのつながりが豊かな地域の子どもの学力は高い。それに対して、つながりが脅かされている地域の子どもの学力は相対的に低い」という「つながり格差」仮説を提唱している。

データ 2（レジリエンス（逆境からの回復力）に周囲の大人が影響）

村松常司「レジリエンス研究のさきがけ」『養護実践学研究』日本養護実践学会、2022 年 https://www.jstage.jst.go.jp/article/yjissen/4/2/4_1/_pdf/-char/ja

松嶋秀明氏が 2014 年に『児童心理』で発表した論文によると、ハワイ諸島のカウアイ島の子どもたちの追跡調査で、困ったときには相談できる人が周りにいる等の社会的（人的）な環境を整えることで健全な成長ができることが示されたという。



データ 3（子どもの権利条約）

外務省「児童の権利条約」 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jido/>
日本ユニセフ協会「子どもの権利条約」 https://www.unicef.or.jp/crc/yjissen/4/2/4_1/_pdf/-char/ja

1989 年 11 月に国連総会で採択。日本は 1994 年 4 月に批准。18 歳未満のこどもが、守られる対象であるだけでなく権利主体であることが明確にされた。現在、196 の国と地域で締結されている。



データ 4（こどもの 9 人に 1 人が貧困状態）

厚生労働省「2022（令和 4）年 国民生活基礎調査の概況」
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa22/index.html> で閲覧可能、14 ページ

国民生活基礎調査（2021 年）に基づく、相対的に貧困の状態にあるこどもの割合は 11.5%。ひとり親世帯では 44.5%。



データ 5（こども基本法）

こども家庭庁「こども基本法」 <https://www.cfa.go.jp/policies/kodomo-kihon>

2022 年 6 月成立、23 年 4 月施行。こども施策を社会全体で総合的かつ強力に推進していくための包括的な基本法。



データ 6（こども大綱）

こども家庭庁「こども大綱の推進」 <https://www.cfa.go.jp/policies/kodomo-taikou>

こども基本法に基づき 2023 年 12 月に閣議決定。アクションプラン「こどもまんなか実行計画」も同ページから閲覧できる。



データ 7（こども白書）

こども家庭庁「白書」 <https://www.cfa.go.jp/resources/white-paper>

こども基本法に基づく年次報告。最新は「令和 6 年版こども白書」。



学校ひらいたモン

公教育と地域のつながりが こどもを支える

編集責任者
水木千代美

編集
岡本智子

エディター・エディトリアルデザイン
百瀬真友美（ハンドレッドラボ株式会社）

表紙・本文イラスト
マスタニトモエ（てのひら製作室）

DTP
大島智奈美（ハンドレッドラボ株式会社）

2025 年 3 月 31 日 発行

発行
NPO 法人 COCONI
info@coconi.or.jp
https://coconi.or.jp/



公益財団法人ベネッセこども基金
2022 年度 経済的困難を抱える子どもの学び
支援活動助成事業

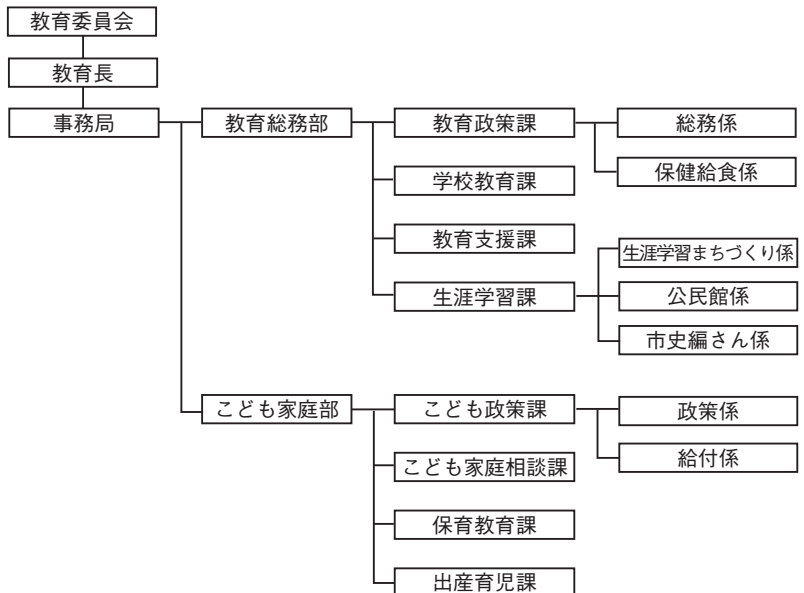
摂津市の概要 （令和 5 年度版摂津市統計要覧より）

面積 14.87km²
人口 86,346 人（令和 6 年 3 月 31 日）
平均年齢 45.7 歳（令和 5 年 9 月 30 日）

〈学校の概況〉（令和 5 年 5 月 1 日）
小学校 10 校（公立 10 校 私立 0 校）
中学校 6 校（公立 5 校 私立 1 校）
小学生 4,176 人
中学生 1,986 人（公立のみ）
小学校教職員 298 人
中学校教職員 169 人（公立のみ）



摂津市教育委員会事務局の組織 （2024 年 4 月 1 日現在、摂津市ウェブサイトより）



NPO 法人 COCONI

●ビジョン

すべての子どもたちが一歩先への希望をもてる社会

●ミッション

身近な大人たちがつながることで子どもたちの生き方の選択肢を広げる

●クレド

1. 子どもの利益を最優先に考える
2. 子どもの個性・思いを尊重する
3. 子どもの置かれている状況や背景をみる
4. 互いの考えを認め合意形成を追求する
5. 多面的視点で考え行動する



NPO 法人
COCONI